

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 22-002

PDCA	事務事業名	学校体育施設開放事業	部課等名	健康子ども部 スポーツ課 振興担当	担当 内線等	新美 421	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 4. 生涯スポーツ・レクリエーション					
		単位施策： (1) 生涯スポーツの実現					
		個別施策： ③学校体育施設の開放					
根拠法令等	半田市学校体育施設開放規則						
対象・目的	市内に在住・在勤・在学する方で構成され、責任者として成人を含む10人以上の団体を対象に、学校教育に支障のない範囲で学校体育施設を開放し、市民に身近なスポーツ活動の場を提供する。						
目的を達成するための手段・活動内容	・ 総合型地域スポーツクラブ及び市民登録団体に使用許可 ・ 学校活動以外の日時を使用できるよう調整 ・ 団体が活動できるよう設備や備品の整備						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①体育館利用可能回数	8,705	9,767	10,220	回	
		②運動場利用可能回数	5,164	4,439	4,892	回	
		③夜間照明施設利用可能回数	1,410	1,413	1,420	回	
		事業費	4,490	5,041	4,728	千円	
		人件費	2,519	4,111	4,197	千円	
		総事業費	7,009	9,152	8,925	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
		①学校体育施設開放の利用可能回数1回あたりの経	459	586	540	円/回	
		②					
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①体育館稼働率	実績値	79.50	82.50	75.3	%
			目標値	83.6	86.2	83.0	
		②運動場稼働率	実績値	61.29	63.20	55.6	%
目標値			65.7	68.5	64.0		
③夜間照明施設稼働率		実績値	57.58	56.10	55.6	%	
		目標値	65.2	65.2	65.2		
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある	
	事業の評価・課題	D					
		半田中学校及び亀崎中学校の部活動が、総合型地域スポーツクラブの非会員となり、これまでスポーツクラブの会員として使用していた一部の小学校体育館・運動場をスポーツクラブとして使用しなくなったため稼働率が減少した。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
総合型地域スポーツクラブと連携し、施設の開放状況を公開するなど、新規会員の獲得を目指す。また、2団体以上で使用する日を調整するなど利用状況を見直す必要もある。さらに、老朽化している学校体育施設の備品の修繕を迅速に行い、引き続き、利用者が安心してスポーツができる環境の整備に努めていく。							
令和元年度の目標		成果指標	目標値		単位		
		①体育館稼働率	83.0		%		
		②運動場稼働率	64.0		%		
③夜間照明施設稼働率	65.2		%				